

2024年2月6日



『朝礼時講話～報告事項』

## (1) 講話【無財の七施(むざいのしちせ)…①】

仏教の教えに『無財の七施』というものがあります。無財の施しとは財施の逆の事。一番身近な財施は、お布施や寄進などがあげられますが、今日ご紹介する「無財」とは、お金や物という財力に依ることの無い七つの施しという事になります。紹介しますと、眼施(がんせ)、和顔施(わげんせ)、言辞施(ごんじせ)、身施(しんせ)、心施(しんせ)、床座施(しょうざせ)、房舎施(ぼうじゃせ)の7つです。時間の関係上、本日は最初の三つについてお話ししたいと思います。

一つ目は『眼施』。「やさしい眼差しで人に接する」意味。「目は口ほどにものを言う」という言葉があるように、特にマスク生活を強いられたこの3年間は、目によってかなり大きな影響を与えていたと思います。優しい目や穏やかな目をするか、逆に冷たい目や厳しい目をするかで印象は180度変わってしまいます。また、目線についての心理的影響の科学的説明がされておりまして、1分間の内、目を合わせる割合によって、感じ方が大きく異なってくると言われています。0秒～20秒のほぼ目を合わせない状況ですと、受け取る側の心理としては、「冷たさを感じる、無視された」等の感覚が生じると言われています。あれ?なんか私悪い事したっけ?等と、何もなかったとしてもそのようなマイナスの思考が働いてしまいます。真逆に40秒～60秒のほぼ目線を外さないといった場合には、好意がある場合を除けば「威嚇、圧迫感」を覚えてしまうとされています。物売りの方が玄関に居座って目線を外さずピーアールしてくる手法は、かなりプレッシャーを掛けられた感覚になり、あまり良い印象にはならないですね。程よいのは、20秒～40秒とされていますが、これは経験で身につけるしかないのですが、程よく目線を合わせたり外したりできるコツとしては、横や斜めに座るなどして、傍にいる存在は示しつつ、必要に応じて目を合わせに行くくらいが良いかもしれませんね。

続いて『和顔施』。「にこやかな表情で接する」意味。くったくのない笑顔などがあげられますが、大人社会の計算した作り笑顔や愛想笑いなどではなく、赤ちゃんやお年寄りが見せてくれる計算のない笑顔こそ、相手を心底快くするものでしょう。

最後は『言辞施』。「やさしい言葉(声)で接する」意味。昔のお父さん方が、「何も言わなくても分かるだろ!」などと言う時代がありましたが、言葉はちゃんと伝えなければ分かりません。「ありがとう」「ごめんなさい」と中々言えないけれど、言葉にする事。「おはよう」「ごくろうさま」の言葉一つも、掛けるか否かで大きく印象は変わります。やさしい声の質や受け取りやすい話の速度、キーの高低も大事です。気持ちを込めて言葉にしたいものです。

これらの施しを一つでもしましょう、というのが仏教の教えです。しかし親鸞さんの見方からすれば、周りの人から沢山の無財の施しを受けて日常が支えられている。そこに立ち返る事がとても大切だというものです。お互いが施し合って存在している事を今日も大切に参りましょう。

## (2) 連絡事項について

- ① 本日のショートステイ、T.Sさん9時30分短期入居、A.Fさんは16時短期退居となります。
- ② 本日の面会は3件です。10時30分にK.Iさん第2事務所、11時にY.Tさん静養室、そして到着次第ですが、およそ11時にT.Tさんせせらぎ3番地にて面会となります。
- ③ 職員親睦会の新しい委員が各部署より選出され決定しましたので、別紙のとおりご報告します。年度末も迫ってきた中々集まれないと思いますが、来年度も引き続き、今回決定した委員の方々にお願いしていければと思います。宜しく申し上げます。

【講話:理事長 ①生活相談員 ②生活課長 ③事務課長】